ＰＥＧとは

経皮内視鏡的胃瘻造設（Percutaneous Endoscopic Gastrostomy）の略称でPEG（ペグ）と呼ばれています。

＝PEG＝

何らかの原因で経口的に栄養を摂取できなくなった方々への栄養管理方法は大きく分けると、消化管を利用する方法（経腸栄養法）と静脈を利用する方法（経静脈栄養法）があります。消化管に異常がある場合には静脈を利用する方法しか選択できませんが、より生理的に栄養を取ることを考えると消化管を利用する方法が理想的です。経口摂取ができなくなった初期の段階では鼻からチューブを入れて胃内に栄養剤を注入する経鼻的胃チューブ法が選択されます。しかし、鼻や咽頭に炎症が生じたり、チューブが抜けてしまったり、外観も重症感が強くなってしまいます。そこで、お腹にボールペンの柄程の小さな穴を開けてチューブを胃内に挿入し栄養剤を注入する胃瘻という方法があります。胃瘻の造設は以前は全身麻酔下で外科医が開腹して造設していました。その後、内視鏡の技術の向上と内視鏡手術の進歩により、この胃瘻造設術も局所麻酔下で内視鏡的に行われるようになり、低侵襲で比較的安全に行なわれることで広まってきています。

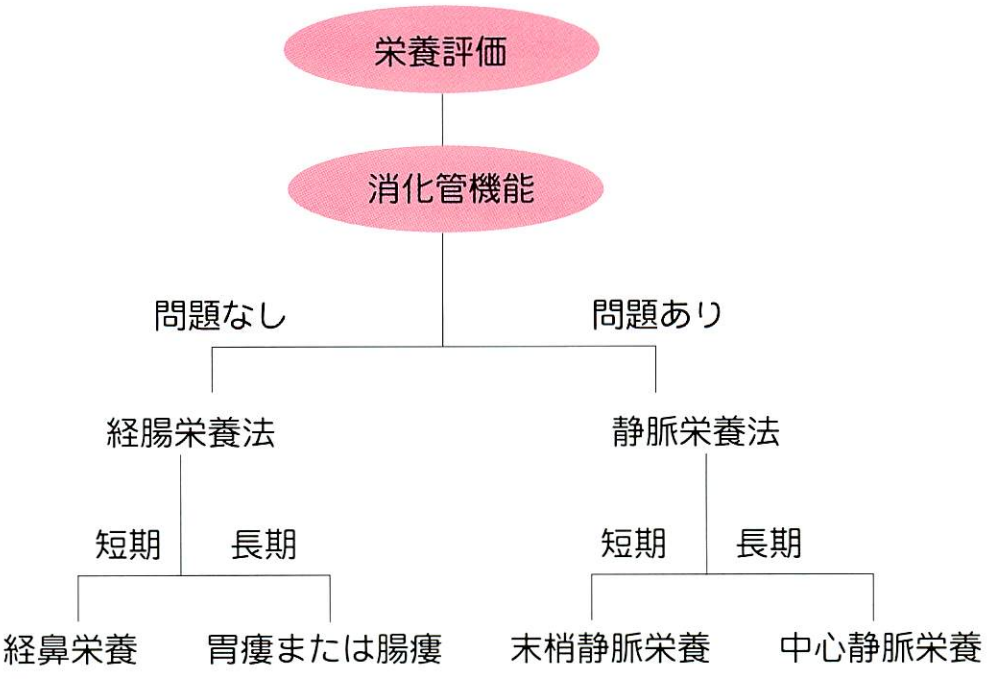
慣れた内視鏡医と術者、それをサポートする看護師がいれば、比較的安全に全工程３０分程で行える確立した手技となってきました。

栄養剤の投与も比較的早期から開始でき、管理も容易で安全性も高く、費用面でも低コスト、在宅栄養管理には適している方法です。

胃瘻カテーテルの本来の栄養剤注入する利用法以外に用いられることもあります。例えば、消化器癌などによる癌性腹膜炎や腸閉塞に対し、胃に停滞する消化液を排泄するドレナージチューブ（経鼻胃管カテーテル）の代用としての利用されることもあります。

＝ジェジュナールカテーテル＝

胃瘻を造設しても胃運動機能の低下やひどい食道裂孔ヘルニアがある場合、栄養剤を注入しても胃に栄養剤が停滞し、その胃内容が食道に流入し嘔吐します。その結果、嚥下性肺炎を併発するため胃瘻からの栄養剤の注入は中止となります。ジェジュナールカテーテルは造設した胃瘻カテーテル内腔に細いカテーテルを通し、その先端を十二指腸から先の小腸に留置するカテーテルです。この方法であれば嘔吐せず栄養剤を注入することができます。ただし、カテーテルが細いために薬剤が注入し難かったり、詰まり易かったりするために、カテーテルの交換は1ヶ月程で行なうことになっています。



経腸栄養と経静脈栄養との比較

	経腸栄養	経静脈栄養
消化吸収機能	必要	不要
排便	あり	ほとんどない
手技・管理	簡単	複雑
合併症	少ない 下痢など	やや多い 敗血症など
安全性	高い	低い
経済性	安価	高価

胃瘻栄養法と経鼻栄養法の比較

	胃瘻栄養法	経鼻栄養法
手技	簡単	簡単
顔面の違和感	ない	ある
合併症	創部感染	鼻腔のびらん 食道・胃の潰瘍
自己抜去	少ない	多い
チューブのつまり	少ない	多い
カテーテル交換	1回／4・6ヶ月 1回／1ヶ月	1回／1・2週